

実施計画段階での作業プロセス

実施計画段階は、実用化を踏まえて結論を下さなければなりません。特にゾーニングやレイアウト、賃貸ビルの建築条件との整合、実際の運用を想定した詳細計画が必要となり、各部署との調整業務は必須事項となります。実際の使用状況と適合できれば良いのですが、馴れ親しんでいる環境を変えるためには、裏付けやかえるための根拠がなければ、不満要素が蓄積されるだけで、收拾がつかなくなります。委員会そのものが、確実にリーダーシップを取り、理解を求めることが、円滑に実現できる鍵となります。

